



能登やさしいこめづくり情報

田植え編

育苗日数1か月以内の健苗を植え、分けつを確保！

平成31年4月
能登米振興協議会
能登米生産者協議会
能登南部営農推進協議会
J A 能登わかば

1 健苗の準備

◆育苗日数1か月(20~30日)以内が田植えに適した苗です。

- ・育苗日数が長く、葉令が進んだ老化苗を田植えすると、活着(自根で養分や水分の吸収が可能)が遅れ、穂となる分けつ(有効茎)の数が少なくなります。一方、遅く発生する分けつが多くなり、未熟粒による品質低下や減収に繋がります。
- ・活着を早くするためには、種もみの中に養分の残っている状態、葉数(葉齢)が3枚(3葉期)に達する前に田植えをすることが大切です。
- ・田植えの4~5日前からは夜間もハウス側面を開放し、苗を外気に慣らす(順化)。

2 代かき作業について【超重要】

- ・環境に配慮した「能登米」生産において濁水の河川流入を防止する観点から、浅水での代かき作業を実施し、代かき濁水は排水しない。また、田植え前の「強制落水」は避けてください。
- ・作業は田植え日や除草剤散布日を考えて計画的に実施してください。

3 田植え作業について

- ・時期:登熟期の高温を避けるため5月に入ってから行う。低温、強風の日は避ける。
- ・植付本数:1株当たり3~4本の細植えとする。
- ・栽植密度:60株/坪とし、中山間地・低地力・遅植えの場合は、未熟粒発生防止のため疎植は避ける。
- ・植付深さ:2~3cm(第1葉が見える程度)の浅植えとする。深く植えると分けつの発生が遅れます。

田植え前と田植え中に、田植機の栽植密度、植付け深さの設定を確認して下さい。

- ・水管理:浅水管理を基本とし、低温が予測される日や風が強い日は一時的に深水管理とします。
(天候回復後は速やかに浅水管理に戻して下さい)

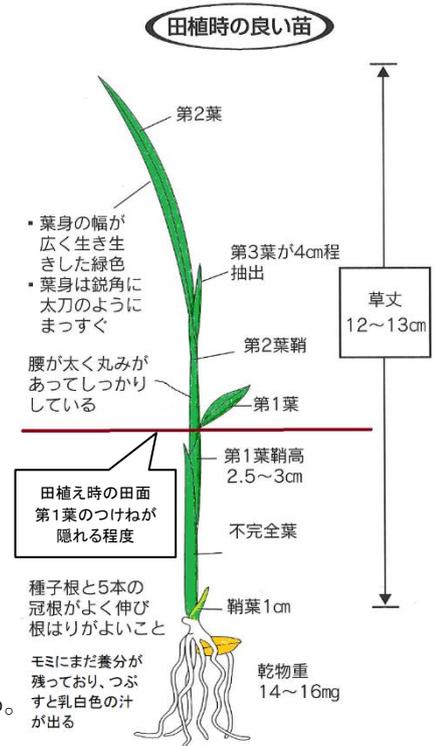
4 基肥施用について (能登米コシヒカリは化学合成窒素成分量5.6kg/10a以下)

- ・基肥一発肥料は代かき直前(全層施肥)または、田植同時(側条施肥)で施用してください。
- ・全層施肥する際には、代かきから田植えまでを5日以上開けないようにしてください。
(施用日と田植日の日数が開くと、穂肥の溶出パターンと稲の生育がズレ、倒伏や品質低下を招きます。)

施肥体系	肥料名	施用量(kg/10a)	
		能登米コシヒカリ	ゆめみづほ等(早生)
基肥一発	BB 有機入り能登コシ一発	20~上限30	—
	BB けい酸パワー・コシ一発くん	40~上限55	—
	BB 里山の香	45~上限53	—
	BB 新早生一発くん		35~40
分施体系	BB 高度056号	20~上限28	30~40

※ 施用量は目安です。地力に応じて加減して下さい。

※ コシヒカリは、化学窒素成分量を3割削減した能登米栽培のため、施用量の上限を厳守して下さい。



5 病害虫防除・除草剤の使用について

◆ 苗箱施薬剤の散布について

・初期害虫(イネミズゾウムシ、イネドロオウムシ)やいもち病の常発地では必ず防除を実施して下さい。

薬剤名	散布時期	散布量	主な対象病害虫
Dr.オリゼフェルテラ (2成分)	田植3日前～ 田植当日	50 g/箱	いもち病、白葉枯病、ツマグロヨコバイ、フタオビコヤガ、イネドロオウムシ、イネミズゾウムシ、ニカメイチュウ、イネツトムシ

※ JAからの購入苗には苗箱施薬剤が散布済みの苗があります。重複散布しないよう注意してください。

※ 葉が濡れていない状態で均一に散布し、葉に付いた薬剤は払い落してください。

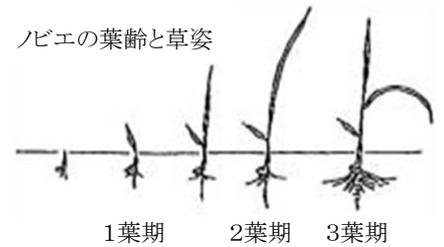
◆ 除草剤の使用について

・雑草は代かき直後から発生し始めます。除草剤の使用時期を守り、かつノビエの適用葉齢以内に散布して下さい。

(参考)代かき後日数とノビエの葉齢の関係

ノビエの葉齢		1.0 葉齢	1.5 葉齢	2.0 葉齢	2.5 葉齢	3.0 葉齢
代かき後の日数 (平年の場合)	羽咋	7日	12日	16日	20日	23日
	志賀	8日	13日	17日	21日	25日
	七尾	8日	13日	17日	20日	24日

※ 5月1日に代かきを行った場合で平年の有効積算温度により試算



体系	除草剤名	10a使用量	使用時期
初期剤 1成分	マーシート1キロ粒剤	1kg	田植同時～ノビエ1葉期
	ベクサーフロアブル	500mL	田植同時～ノビエ発生始期

体系	除草剤名	10a使用量	使用時期
中期剤 3成分	マメットSM1キロ粒剤	1kg	田植後15日(稲5葉期以降)～ノビエ3.5葉期

残草・後発生があった場合

体系	除草剤名	10a使用量	使用時期	
初中期一発剤 2成分	ガンガン1キロ粒剤	1kg	田植同時～ノビエ3葉期	
	カチボシ1キロ粒剤51	1kg	田植同時～ノビエ2.5葉期	
	コメット	1キロ粒剤	1kg	田植同時～ノビエ2.5葉期
		顆粒	80g	田植同時～ノビエ2.5葉期
	パッチリ	1キロ粒剤	1kg	田植同時～ノビエ2.5葉期
		フロアブル	500mL	田植同時～ノビエ2.5葉期
		ジャンボ	400g	田植直後～ノビエ2.5葉期
サラブレッドKAI1キロ粒剤	1kg	田植同時～ノビエ2.5葉期		

体系	除草剤名	10a使用量	使用時期
後期剤 1成分	※多年生雑草が残った場合 アトトリ1キロ粒剤	1kg	田植後20日(稲5葉期以降)～ノビエ4葉期
	※ノビエのみ残った場合 ヒエクリーン1キロ粒剤	1kg	田植後15日～ノビエ4葉期
	※広葉・多年生雑草が残った場合 バサグラン粒剤	3～4kg	田植後15日～55日(落水散布)

残草・後発生がある場合

能登米コンヒカリに使用できる除草剤は限られています。この情報に記載の剤は使用可能。他に使用できる剤は営農ごよみ等を確認してください。「能登米コンヒカリ」以外の品種は除草剤の指定はありません。

- ・除草剤を田植同時散布した際に入水が遅れ気味となり、除草剤の効果が十分発揮できていないほ場がみられます。田植後は、直ちにゆるやかに入水し、湛水状態(4～5cm)を保ちましょう。
- ・湛水状態で散布する除草剤の有効成分は、一旦水中に溶解した後、徐々に土壌表面に吸着され、除草効果を発揮します。安定した効果を得るために、散布後3～4日間(処理層が形成・安定する時間)は湛水状態とし、散布後7日間は落水やかけ流しはしないで下さい。止むを得ず入水する場合は静かに(処理層を壊さないよう)行う。

6 補植作業には注意を!

- ・20株に1株程度の欠株なら、補植は不要です。隣接株が大きく育ちカバーするため減収にはつながりません(補償作用)。どうしても補植する場合は、除草剤を散布する前に実施して下さい(散布後では、除草剤の薬害により補植苗の生育抑制や枯死、足あと部分からの雑草発生の原因になります)。
- ・補植用の活け苗は、いもち病の発生源となるので、補植作業後は速やかにほ場から撤去してください。

安全・安心で環境にやさしい能登の米づくりルール

- 安全・安心な米を提供するため、農薬はラベルに記述してある使用方法を厳守して下さい。
- 水稻育苗後に野菜を作付する場合、ハウス内で水稻用農薬を散布しないで下さい。
水稻用農薬が野菜に残留する可能性があります。残留すると野菜の出荷・販売はできません。
- 代かき後の濁水の河川への流出防止に努めましょう。

代かき後の濁水の流出は下流域の河川の濁りの原因となります。僅かな流出でも、集まると大きな濁りにつながります。流出防止のために、代かき作業は浅水で行い、田植前に濁水を流す「強制落水」は行わないで下さい。